○第３期メンタルヘルス法務主任者資格認定試験
[基礎問題]

2015.6.28

【精神医学】
問１　心因性精神疾患に関する記述として正しいものを選んで下さい（配点５）。
　①個体側のパーソナリティや発達に何らかの偏りが認められた場合には、環境側の要因を考慮する必要はない。
　②情報源が増えると混乱をきたす原因になるので、診断はあくまで本人の訴えに基づいて行う必要がある。
　③環境側の問題が明らかな場合は、外因性精神疾患や内因性精神疾患の可能性を探索する必要はない。
　④個体側の要因と環境側の要因の双方が存在する場合、環境を変えることを考慮する必要がある。

【産業保健】
問２　下記の文章のうち正しい組み合わせを選んで下さい（配点５）。
　①復職時には疾病性の回復が必要条件であり事例性の回復が十分条件である。
　②産業医による復職判断では、事例性よりも疾病性の回復が優先される傾向にある。
　③主治医による復職可能の判断は、少なくとも疾病性の回復を保証していることが多い。
　④発生傷病に業務起因性がある場合、事例性の回復は本人が担保すべきでない。

１）①と②　　２）①と③　　３）③のみ　　４）④のみ

問３　次の用語について、それぞれ１００字程度で説明して下さい（２題正答で５）。

事例性：

疾病性：

事例性：「遅刻をする」「職場で大声を出す」「返事をしない」など業務中の客観的な不適切行動を指したり、そのため職場関係者が困惑したりする状況や事実をいう。

疾病性：発生疾病に起因する症状（幻聴、抑うつ、意欲低下、睡眠不良等）や客観的な不健康状態が職場関係者に認められる状況や事実をいう。